

自然の神秘を発見する

九十九島ビジターセンターは大学と地方自治体と密に協力して、九十九島の定期的な調査を行っています。これは九十九島の天然記念物を保護し続けるため不可欠であり、また、個々の生態系と環境に影響する要因に対する理解を深めるのに役立ちます。

例えば、2000年に行われたトコイ島という無人島の調査では、トビカズラ (*Mucuna sempervirens*) と呼ばれる花を咲かせる蔓の存在が明らかになりました。この紫の花を咲かせる植物の保護種は、中国南西部の全域で見られますが、日本に自生しているのが発見されたのはこの時が初めてです。この蔓がどのような経緯によってここで生育するようになったのかは今でも謎のままです。大陸移動や中国から種子が漂着した、あるいは人間によってもたらされたなどの仮説が立てられています。

- 展示写真の詳しい情報を見るには QR コードを使ってください。無料 WiFi が利用できます。

<写真>

トビカズラの発見

天然の森林環境で開花するこの希少な顕花植物は、トコイ島の植物調査中に発見されました。

カノコユリ (*Lilium speciosum*) の開花調査

日本語ではカノコユリと呼ばれるこのユリ科の植物の定期調査。

海洋性アメンボの調査

研究者は、絶滅に瀕している九十九島の海にいる 2 種類のアメンボ、シオアメンボ (*Halovelis septentrionalis Esaki*) とウミアメンボ (*Halobates japonicus*) を調査しています。この昆虫はビジターセンターのマスコットで、フロントデスクにはウミアメンボの大きなぬいぐるみが置かれています。

水質検査

海水は、水温と透明度、その他の変化を観測するため、毎月二回検査されています。

シロウオ (Ice Goby) 産卵調査

シロウオ (ice goby, *Leucopsarion petersii*) は重要な旬の魚です。九十九島の島々のいくつかに流れる小さな川でも産卵することができます。

海洋植生の調査

専門家とボランティアが協力して九十九島で見られる多様な海洋植生の分布を調査しています。